

Carbon Neutral Now

(中国地域カーボンニュートラル推進協議会便り)



10月11日(水)、広島市内において、会場開催とオンライン併用により「燃料のカーボンニュートラル化に向けた水素・アンモニアの利用拡大のための課題および今後の方向性」をテーマとするセミナーを開催しました。当日は会場38名、オンライン217名の参加がありました。

1. 我が国における水素・アンモニア導入拡大に向けた取り組み、今後の方向性

[経済産業省 資源エネルギー庁]

省エネルギー・新エネルギー部水素・アンモニア課総括係 村端 歩 氏より、水素・アンモニアに関するサプライチェーン構築に向けた検討状況やGX実行会議における最新の状況等について説明いただきました(以下は要旨)。

- ・水素・アンモニアの社会実装に向けては、我が国が持つ優れた技術を国内および海外へ展開することで、経済成長と雇用拡大に繋げることが重要。
- ・6月に改定された国の「水素基本戦略」において、新たに2040年の水素導入量が示され、より明確な目標とロードマップが示された。
- ・日本としても後れを取らないように、強靱な大規模サプライチェーンの構築が必要であり、国としてもこれに向けた支援制度を検討中。
- ・国としては、今後20兆円規模(うち7兆円程度が水素・アンモニア関係)のGX経済移行債を呼び水として投資を拡大させて、10年間で150兆円を超える官民のGX投資の実現に向けて強力に実行していく考え。

2. カーボンニュートラルに向けた水素・アンモニアの役割と最新動向

[一般社団法人クリーン燃料アンモニア協会]

同協会会長 村木 茂 氏より、水素キャリアとしても注目されているアンモニアを中心に、その利用技術の紹介とロードマップ等について説明いただきました(以下は要旨)。

- ・電力シフトと電力供給の脱炭素は重要だが、太陽光・風力とも諸外国に比べて急峻な土地が多く適地は限られ、コストが割高になるなど課題は多い。
- ・このため、再エネコストの安い国でクリーン水素を製造して、それを液体にして海上輸送することで、日本の再エネよりも安く供給できるシステムの開発が必要。
- ・発電に大きな変動を伴う太陽光や風力を普及させるためには、負荷変動が可能なゼロエミッション火力発電を開発し、安定供給を確保する必要。
- ・アンモニアは、社会導入の初期段階における、発電所や工場などの管理された区域での利用を想定すると、利用上のハードルは決して高くない。
- ・今後のサプライチェーン構築にあたっては、民間でも交渉できる資源外交上の包括的連携国(アメリカ、オーストラリア、カナダ、ノルウェー)との関係強化が重要となる。

(担当：西岡)